

べきでした。カルカッタの日本領事館では日本語を教えてくださいましたが、何分遠方でしたので利用することが出来ませんでした。実際ははじめの数日間は

“Water, water, everywhere

Not a drop to drink”

の心境でありました。最近多少はわかるようになり、ともかくにも日本へ来ることが出来、日本および日本人を理解することが出来るようになって本当にうれしく思っております。

書 評

望 遠 鏡

——美しい星の像を求めて——

広瀬秀雄著

(中央公論社、自然選書、B6判、193頁、980円)

標題の「望遠鏡」を一瞥すると、誰れしも堅苦しい内容をもった本だな、と思いこんでしまう。アカ抜けした表装にフト気を引かれ、手にとってパラパラッとページをめくり拾ろい読みをしてみると、大変にくだけで、

しゃれて、チョッピリ堅く、第1ページからあらためて読み直させる本である。

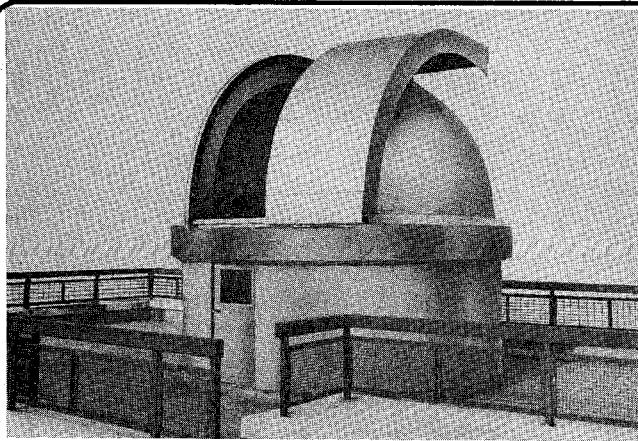
著者の詮索癖と博学と、そして夢と幻が洒脱な筆となり、楽しいエピソードをいっぱい盛った望遠鏡の文化史、望遠鏡の百科事典ともいえる本になっている。

『私の小さいころの双眼鏡といえば、ガリレイ式と相場がきまっていた。そのころよく見かけた口径5センチほどで、接眼レンズの枠に蜂のような小さな花卉形のマークのついた双眼鏡で、薄暮に見る外界の景色はみものであった。もうろうとした外界は、一度この双眼鏡を通すと、はっきり浮び上って見え、「ナイト、グラス」とはよくいったものだと感心したものである』

これは著者ばかりではなく、グッと皆々に通じる実感である。

『私たちが学生のころ、観測実習中に、曇りにでもなると、つれづれのまま木筒の口径8センチほどの望遠鏡を持ち出して、遠くの明るい窓などを見たものであった。大方の先生方もみなこんな前科をお持ちになっているらしい』

未経験者に対しては、天体望遠鏡とは、聖なる天界ばかりではなく、俗なる下界のすべての観測にも使用出来た



営業品目

- ★天体望遠鏡ならびに双眼鏡
- ★天体写真撮影用品及び部品
- ★望遠鏡各種アクセサリ
- ★観測室ドームの設計・施工



←LN-10E型
25cm反射赤道儀

★総合カタログ
ご希望の方は切
手300円同封お
申込みください

ASTRO 光学工業株式会社



〒170 東京都豊島区池袋本町2-38-15 ☎03(985)1321

ことを暗に教えてくれる。妖しき人間の心のために、悲しくも倒立像となっていることは語られてない。経験者には、過去のひそやかなる追憶に浸らしめ、しばし「恍惚の人」たらしめて「誰れでもやることは同じだわい!」と苦笑を催させる。

『長一間程の蹺蹺、六里見之……。六里(約24キロ)離れて人が弁別できると解釈し、人の背丈を1.6メートル、弁別のための見かけの人の視角を仮りに6分として倍率を計算してみると、必要倍率として30倍となる。人間の視角が3分であればよしいなら、倍率は15倍で足りるはずである』

脳細胞はなぜか急に蘇えり、無意識のうちに試算を始める。不思議な本である。望遠鏡に関する本なのに、予算かくとくの方法なども智恵づけされる。肩もこらさずにかしこくなる本で、星に心を寄せる者ばかりではなく、雑学専門家、特に雑学専門家を心ざす者にとっては、座右に欠くことの出来ない、またとない本である。

副題「美しい星の像を求めて」のためにも、落語家のためにも、結びに、ウィリアムハーセルが、ジョージ三世の王妃の依頼により、悪天候のために心ならずも皇女たちに望遠鏡で、手製のイカモノの土星をのぞかせた実話の一端だけが見つからなかったことは、著者の嘆きの言葉の如く「靴をへだててかゆいところをかき」思いであった。
(藤井永喜雄)

雑 報

銀河コロナと質量/光度比

銀河の質量を推定するには、一般に二つの方法がとられる。即ち、星、H II 領域、或いは水素ガスの視線速度から回転曲線又は速度分散を求めて質量を決める方法と、二重銀河の相対速度の統計から、二重星の質量を決めるのと同じ手法を用いる力学的な方法である。

回転曲線の方法で推定される質量/光度比は(太陽を1として)渦状星雲で約10、楕円銀河でおよそ50とされており、銀河の半径は10~20 kpcとされて来た。

ところが、Einast 等(Nature 250, 309, 1974)は最近、沢山の二重銀河系の運動を統計的に調べ、銀河には半径50乃至100 kpcに広がった、見えないコロナが存在し、コロナを含めた全銀河の質量は、従来推定されている質量に比して、約10倍大きい筈であると主張している。即ち、質量/光度比は、渦状星雲で約100、楕円星雲で120以上と結論した。Ostriker 等(Ap. J. 193, L 1, 1974)も、銀河円板の安定性を保つには、円板と同程度、或いはそれ以上の質量をも、球状のコロナが必要であるとしている。これと全く同様の結論が既に1967年にM. Miyamoto (PASJ, 19, p. 242)によって得られていることに注目したい。

わが国唯一の天体観測雑誌

天文ガイド

定価240円(〒32円) 76 — 3月号・2月5日発売!

●3月号のおもな内容

- ★早春の夜空には、おうし、オリオン、ふたご、かにとはなやかな星座が並んでいます。3月は冬と春の星座が同時に見られます。双眼鏡や小望遠鏡で、プレアデス、ヒアデス、M42、プレセペなどを見てみましょう。
- ★このすばらしい星空をカメラにおさめたいと、だれでもが思うでしょう。赤道儀がなくても写真は写せます。
- ★今、土星が見ごろです。だれでもぜひ見たい惑星です。土星の観測ガイドを藤井旭さんに書いてもらいました。
- ★この冬の火星の接近で、火星面はどうなっているでしょう。火星の中間報告です。
- ★双眼鏡の実用テストは今月は五藤光学の巻です。

天文年鑑1976

毎年刊行されている1年間の天文現象ガイドブックです。1月から12月までの星座、惑星、流星、彗星、小惑星などの案内のほか、過去1年間に起った目立った天文現象や天文界のトピックスの報告を収めています。多くの天文アマチュア、専門家、学校などで愛用されている信頼ある年鑑です。今年で第28冊目です。

●天文年鑑編集委員会編/B6判・400円好評発売中

火星

パトリック・ムーア

チャールズ・A・クロス 共著

斉田 博訳

火星には運河がある、火星人がいるらしいなど、この星は昔から話題の豊富なロマンに満ちた惑星です。宇宙探査船マリナー号は、火星の上空をまわり多数の写真を撮り、観測をして、地球へ送ってきました。本書はアメリカ・ソ連の最新の情報、資料を使って描き出した火星の紹介です。運河はないのか?火星の極冠は氷か炭酸ガスか? ●A4判・2800円・好評発売中!

誠文堂新光社

東京都千代田区神田錦町1-5
振替東京6294 電話03(292)1211